

令和7年度大阪大学職員研修
研究での利活用に向けたデジタルアーカイブの構築・運営：
デジタル人文学を中心として

2026.2.13 大阪大学附属図書館

使われるデジタルアーカイブって何だろう？ 東京大学附属図書館の取組をもとに

東京大学附属図書館
総務課企画渉外チーム／学術資産アーカイブ化推進室

中村美里 NAKAMURA Misa

はじめに

使われるデジタルアーカイブって

なに？

？



私もよく分かりません・・・

今日はそれを
一緒に考える機会にできれば

1. 東京大学デジタルアーカイブズ 構築事業

1. 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

■ はじまり

東京大学ビジョン2020（2015年10月公表）

アクション1③ 学術の多様性を支える基盤の強化
東京大学が保持する学術資産のアーカイブを構築し、その公開と活用を促進することで、学術の多様性を支える基盤を強化する



■ 事業実施に向けた体制づくり

・ 東京大学学術資産等アーカイブズ委員会（2016年9月～）

附属図書館、総合研究博物館、文書館、情報基盤センターが中核となる委員会

目的：学術資産等アーカイブズの構築及び活用 → 学術の多様性を支える基盤の強化

・ 学術資産アーカイブ化推進室（2017年4月～）

東京大学デジタルアーカイブズ構築事業を実施するため、附属図書館内に設置される
教員2名（兼任）と図書系職員7名前後から成る ※職員も全員、兼任です

■ 現在の全学的位置づけ

UTokyo Compass（2021年9月公表）

1－2 【多様な学術の振興】（抜粋）

- ・ 図書館の情報提供体制や学術資産のアーカイブ機能を強化
- ・ 学術資産の利活用を促進する
- ・ 文理協働に資する学術資産の収集・把握・保全、目録化、デジタルアーカイブの作成とウェブ上での公開、展示等を進め、文理協働研究の拠点とする



1. 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

■事業の主な取組

①学術資産のデジタル化推進

- 学内で所蔵されている学術資産（貴重資料等）をデジタル化し公開するための予算獲得支援。
- 毎年1回、学内公募を実施しデジタル化に関する事業を募集→それに必要な予算を附属図書館が一括して東大本部に要求→その予算を各事業に配分（右図は2025年度に予算が配分された事業。）
- 例年多くの申請があり、全ての申請事業に予算を配分できているわけではないのが実情。
- 申請内容の評価は、附属図書館ではなくアーカイブズ委員会で行われる。
- 大学全体では、このアーカイブズ予算以外の経費でも様々なデジタル化が行われており（学部独自予算、国文研費用、科研費など）、その状況は推進室では把握できていない。

2025年度実施事業

部局等	事業名
附属図書館	東京大学学術資産等アーカイブズプラットフォームの運用及び増強
附属図書館	総合図書館所蔵貴重図書及び館史資料室資料等デジタル化・公開プロジェクト
文書館	『諸向往復』（昭和19～昭和22年）、『学内往復』（明治3～明治33年）及び『文部大臣准允』（明治12年～昭和6年）のデジタル化
法学政治学研究科	法制史資料室所蔵貴重資料群のデジタル化
工学系研究科	工学系研究科建築学専攻所蔵古建築実測図面のデータベース構築
経済学研究科	政策決定過程記録資料デジタル保存プロジェクト
農学生命科学研究科	森林成長に関する長期観測資料のデジタルアーカイブ化
総合研究博物館	東京大学創設期生物標本デジタルアーカイブ

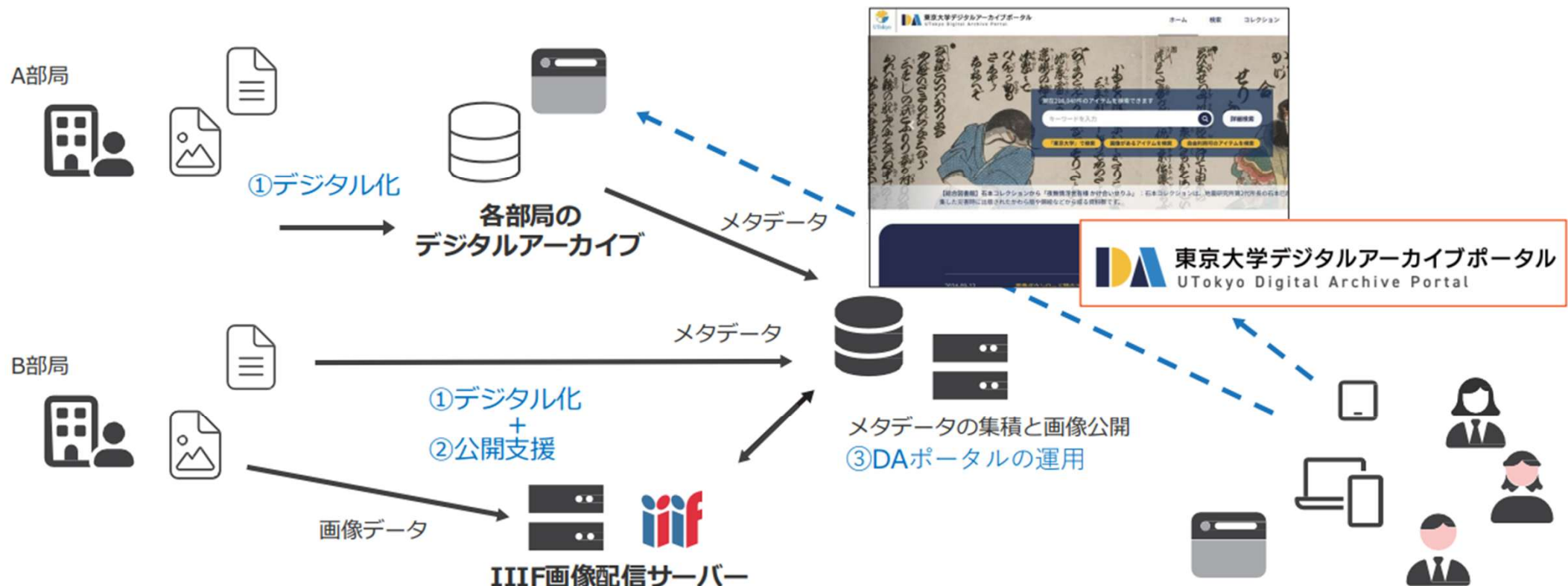
1. 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

■事業の主な取組

②「東京大学デジタルアーカイブポータル」の構築・運用

アーカイブズ事業予算により作成されたデジタル画像を公開する場所。その他にも、以前から公開されていた画像や、アーカイブズ事業予算以外の経費で作成された画像なども取り込み、とにかく東大にある学術資産（貴重書等）の画像やメタデータを一元的に検索、閲覧できるようにするために構築・運用しているポータルサイト。

* 2026年1月末日現在 約26万3,000件のアイテムが検索可能



1. 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

■事業の主な取組

②「東京大学デジタルアーカイブポータル」の構築・運用

画像公開支援も行います！

- 「資料のデジタル化までは行えたが、公開システムの構築・維持が難しい」という学部などには画像の公開支援も実施。ポータル上で画像を公開している。
- 画像とメタデータを提出してもらい、公開作業は推進室員が行う。
- ポータル上での画像公開 イコール IIF 準拠での公開。



外部連携、ハブ機能も担っています！

- アーカイブズポータルの公開コンテンツを広く使ってもらうため（発見される可能性を高めるため）、積極的に外部との連携を実施。
- ジャパンサーチ、NDLサーチのほか、総合図書館所蔵資料の画像はInternet Archiveとも連携。
- 国書データベース（国文研）で公開されている東大資料の取り込みも実施。



東京大学デジタル
アーカイブポータル



(総合図書館分のみ)

2. デジタル源氏物語

2. デジタル源氏物語の爆誕

または私は如何にして心配するのを止めて『源氏物語』に係わるようになったか

<https://genji.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

デジタル源氏物語



Home

画像とテキストを一緒にみる

頁数で探す

校異源氏物語

新編日本古典文学全集

AI画像検索版

挿絵画像の比較

絵入源氏物語

源氏百人一首

IIIF対応源氏物語リスト

東大本・脱文錯簡リスト

デジタル源氏物語について

成果論文・関連資料など

説明動画

お知らせ

デジタル源氏物語

デジタル源氏物語
Ver.YUMENOUKIHASHI

源氏物語本文研究プラットフォームを目指して

画像とテキストを一緒にみる

2025-12-12: 「AI画像検索版」新たな諸本を追加しました

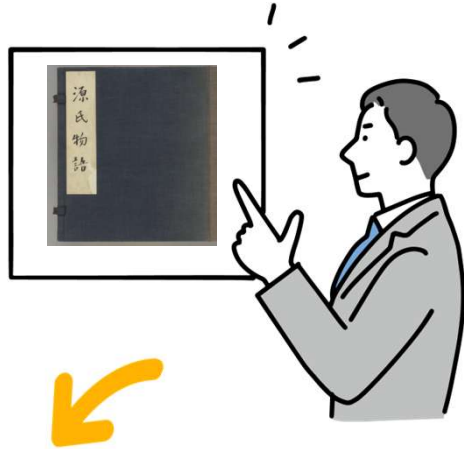
「デジタル源氏物語」へようこそ

東京大学総合図書館所蔵『源氏物語』の公開（2019年6月）を契機に、有志により「『源氏物語』研究にとって有意義なデジタル機能は何か」という検討が始まりました。（通称「裏源氏勉強会」）その成果の一環として、ここに「デジタル源氏物語 - 源氏物語本文研究プラットフォームを目指して -」を公開しました。当サイトでは『源氏物語』に関する様々な関連データを収集・作成し、それらを結びつけることで、『源氏物語』研究はもちろん、古典籍を利用した教育・研究活動の一助となる環境の提案を目指しています。また研究目的以外でも、『源氏物語』を広く楽しんでもらえるような機能の提供も視野に入れサイトの構築

お知らせ

- 2025-12-12 「AI画像検索版」新たな諸本を追加しました
- 2025-08-26 デジタルアーカイブジャパン・アワード2025を受賞しました
- 2025-08-06 デジタル源氏物語と連携「教科書の中の源氏物語 LOD」の公開
- 2025-06-25 「AI画像検索版」の検索が便利になりました

2. デジタル源氏物語の爆誕



ある日、立ち話で田村先生から
「この『源氏物語』 貴重なものな
んですよ」と教えてもらう
※そのときは普通の和古書として
総合図書館の書庫にありました



「当館の基準だと、これ「貴重書」だわ！」
と気が付く

- 早々に貴重書指定の手続きをとる
- ただ貴重書になると貸出不可、閲覧にも
手続きが必要になるなど利便性が下がる
- デジタル化すれば、いつでも見られるな・・・



デジタル化したい！
54帖分の撮影ができる額が
アーカイブズ事業予算で
ピッタリで余ってる！

ありがとう、
アーカイブズ事業！



- ・ 撮影と公開作業でも
田村先生に多くの
助言をいただく
- ・ 今まで知らずにいた
『源氏物語』の世界

裏源氏勉強会



毎日お忙しいですよね、でも
勉強会とかできたら・・・
もちろん無理のない範囲で
いいんですけど・・・



私だけが聞くのは
贅沢なのでは？



mottainai

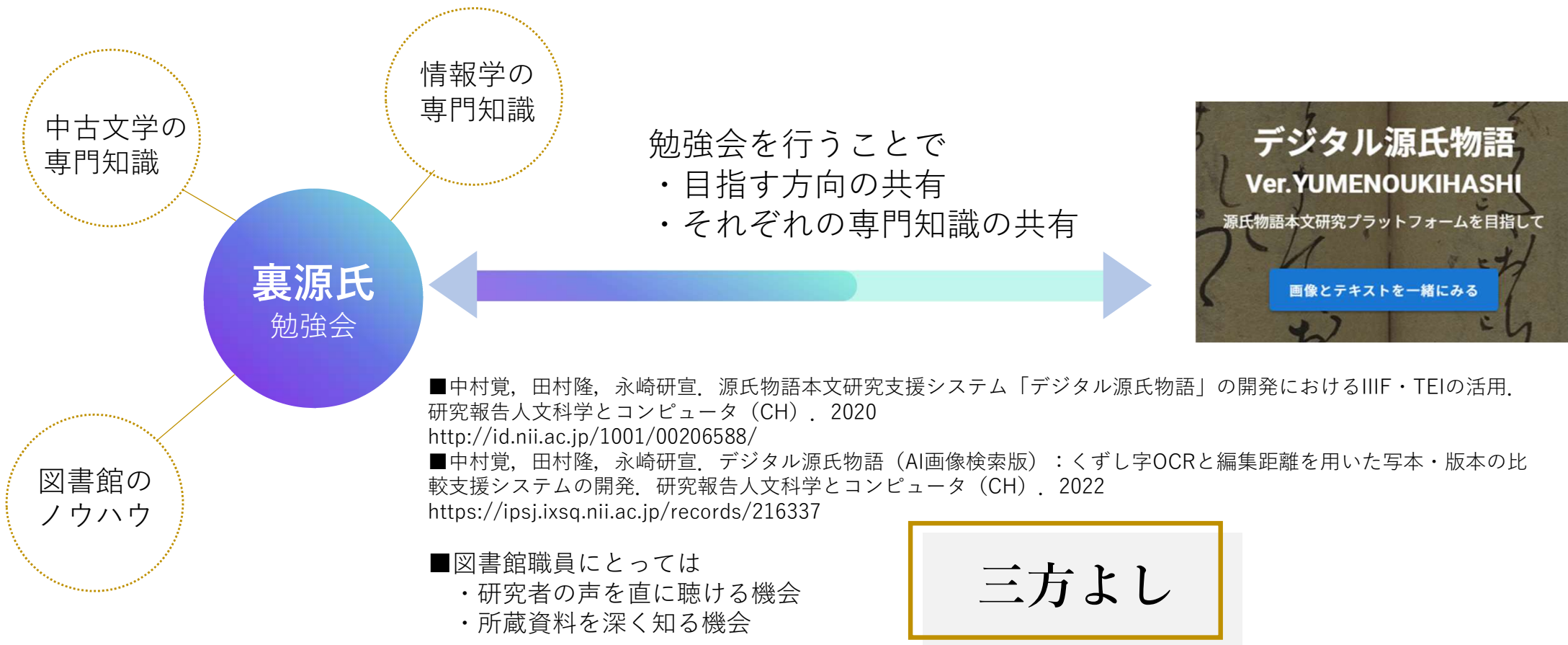
デジタル化された画像が
どう研究に使われるのかも
聞いてみたい・・・



2. デジタル源氏物語の爆誕

■裏源氏勉強会コアメンバー

- ・ 田村隆 東京大学大学院総合文化研究科准教授
- ・ 永崎研宣 慶應義塾大学教授／一般財団法人 人文情報学研究所主席研究員
- ・ 大向一輝 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- ・ 中村覚 東京大学史料編纂所助教
- ・ **東京大学の図書館職員 有志**（8人前後）



2. デジタル源氏物語の爆誕

■研究者の声をきく

- 田村先生から『源氏物語』研究に必須の研究書や参照すべき参考資料、写本の系統など、『源氏物語』研究の基礎情報について学ぶ。
- それらを普段どう使っているか、こういうものがあれば便利、といった意見交換。
- 中村覚先生からの「XXXだったら〇〇〇というツールがあります」という情報提供。
- これ、なにか形にして公開したら便利かも？



- 中村覚先生：プロトタイプを構築
→公開に必要な作業が結構ある、
- 図書館職員：「その作業、余暇時間にできます！」



デジタル源氏物語の公開 (2019年11月)

- 最初は「桐壺」のみを公開
Ver.KIRITSUBO
- 少しずつ作業を進め
Ver.YUMENOUKIHASHI へ!
(2020年9月)



画像とテキストを一緒にみる

2. デジタル源氏物語の爆誕

■研究者の声をきく

- 田村先生曰く「くずし字をある程度読めても、『源氏物語』のような長い作品で確認したい個所をピンポイントで見つけるのは手間がかかる。」
- 「それが複数の写本・刊本にわたるときは、なおさら。」



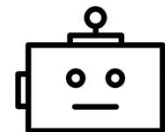
- 「画像とテキストを一緒にみる」は、データ整備をきちんと行ってから公開
- それと同じ手間をかけて諸本の場所を特定するのは、とても大変・・・
- 『源氏物語』のような大部で諸本の多い作品の場合、違うアプローチがあるのでは？



AI画像検索版の公開
(2021年4月)



『校異源氏物語』のテキストデータを基に、複数の写本・版本の全冊画像から該当箇所 **と思われる** 画像を横断的に検索する機能



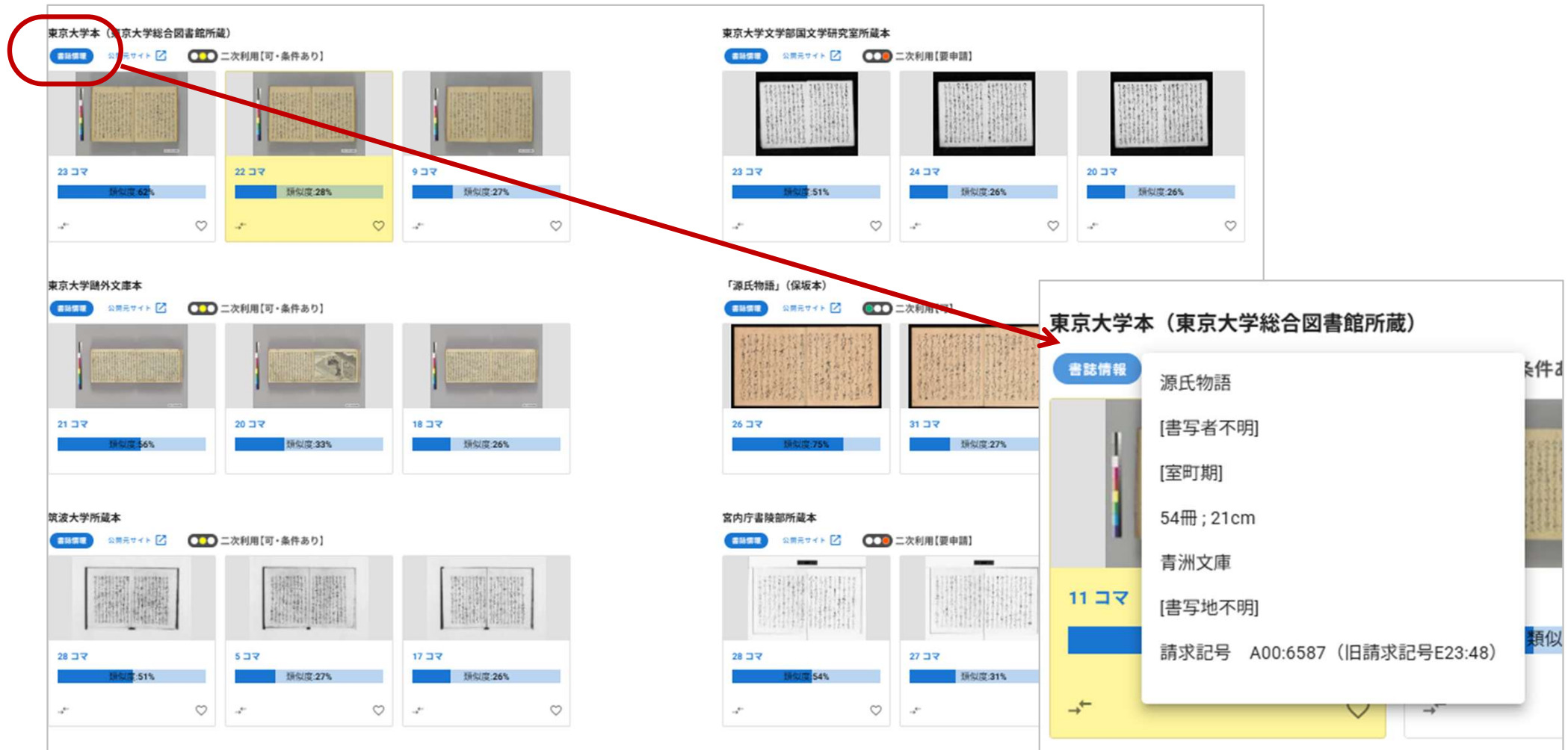
お探しの場所は、
ここじゃないですか？
違ってたらゴメン

2. デジタル源氏物語の爆誕

AI画像検索版の誕生

■研究者の声をきく

- 2026年1月末現在、38種類の『源氏物語』を横断的に検索可能
- ある学外の先生から「検索結果画面で、1クリックで書誌情報が確認できたら良いな」
→「書誌情報」ボタンを途中で増設



2. デジタル源氏物語の爆誕

■いろいろな人に届くように X（旧Twitter）での広報

【アカウント開設の動機】

- NHK大河ドラマ「光る君へ」で「源氏物語」に興味を持つ人が増えるのでは？
- 新しい層に少しでも届くツールになれば！
- 2024年1月に備え、2023年12月から発信
- 大河ドラマ放映中は、なるべく週に1回は投稿を（図書館メンバーが交代でポストしました）

https://x.com/digital_genji

実際に、どのくらいの効果があったかは統計数値的に把握できてないです・・・

でも、やらないよりは
やって良かった



デジタル源氏物語
@digital_genji



(1/2)

#光る君へ 第35話では中宮彰子とまひろが若紫（紫の上）について話している場面がありました。

#デジタル源氏物語 の「パタパタ顔比較機能」を使うと、「源氏百人一首」の画像比較ができます。

紫の上の画像を見てみると、引目・開目の違いを確認できます。

codh.rois.ac.jp/software/vdiff...



引用：大蔵公立大学中世日本文学部蔵 国文学研究資料館提供

開目：全史女子大学文学部蔵 国文学研究資料館提供

2. デジタル源氏物語の爆誕

■ デジタル源氏物語がスムーズに公開できた理由

- 田村先生、中村先生、図書館有志など、それぞれの役割分担がうまく機能したチームで取り組めたから

特に！

- 『源氏物語』研究に精通した田村先生のアイデアを、中村覚先生が技術を使ってことごとく実現
- 定期的に勉強会を行うことで、ともすれば単純作業になりがちなデータ整備の意義を認識できた
→ モチベーションの維持
- 私的な勉強会 という位置付けゆえの自由さ



もしこれが”仕事”だったら・・・

- 先生との公的な連絡調整
- 職員の役割分担決め
- 成果公開までの段取り決め
- タスク管理

などなどなど



3. アーカイブズ事業の 取組紹介

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■試行錯誤の取組

- 「東京大学デジタルアーカイブポータル」での画像公開は、ほぼ
 - 各部署の担当者から、公開したい画像とメタデータを受け取る
 - 推進室で、それらをシステムに登録する
 - 無事に公開！
- という段取りで済みます。（実際、その調整にこそ手間がかかっていますが）
- その中から、「こうしたら研究者や学生が使ってくれるかも？」と思って工夫したもの、公開の経緯がちょっと他とは違うものをご紹介します。



3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■石本コレクション

概要：地震研究所第2代所長・石本巳四雄氏（1893-1940）が収集した、災害に関するかわら版や錦絵などから成る資料群。いわゆる「なまず絵」も豊富。

ここがポイント：**既存テキストデータの活用**

- ①2008年度附属図書館特別展示会の図録に掲載した各資料の解説と翻刻テキストの再利用
→当時の執筆者に許諾をとり直し、個々の画像公開ページで公開（利用条件はCC-BY）
- ②「みんなで翻刻」で石本コレクションが翻刻の対象に →該当ページへのリンクを設置

参考情報：

みんなで翻刻サミット 2021.02.15

東大・総合図書館の「石本コレクション」もみんなで翻刻

<https://wiki.honkoku.org/lib/exe/fetch.php?media=ut.pdf>

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■石本コレクション



一部の資料では画像と翻刻
テキストを重ねて表示

CSV JSON refer/BibIX Universal Viewer Mirador

ホーム / 石本コレクション

なんぢうやかじ飯宅

種別	図書
刊行年、書写年等	安政2年10月2日
刊行年月日（西暦）	1855
形態	縦×横（cm）：24.5×35.5
内容記述	内容分類: 災害 資料分類: 絵巻 印刷分類: 木版(多色) 資料番号: I-02-004

サブコレクション: 石本コレクションI

みんなて翻刻	https://honkoku.org/app/#/transcription/10DB87A8868A808C7F88A6E86AB3149A/1/
--------	---

部局
総合図書館

所蔵者
東京大学総合図書館

提供者
東京大学総合図書館

メディア（画像等）利用条件
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top/reuse>

メタデータ利用条件
<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

CC BY

IIIF マニフェストURI

みんなて翻刻

<https://honkoku.org/app/#/transcription/10DB87A8868A808C7F88A6E86AB3149A/1/>

「みんなて翻刻」での翻刻作業が終わったものは、
「みんなて翻刻」へのリンクを設置

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■ゲーテ自署付書簡

概要：ゲーテ（Johann Wolfgang von Goethe, 1749-1832）の自筆サインが入った一枚の書簡。総合図書館の貴重書。

ここがポイント：何気ない会話からの大発見&翻刻テキストのTEI公開へ

①本学の総合文化研究科 石原あえか教授による資料の来歴調査と、その調査結果の論文発表（2023年）：

ある日の立ち話：中村「ゲーテがご専門なんですね。そういえば当館にゲーテの書簡があるんですよ」
→石原先生「何それ?! 確認させて」→石原先生「ドイツでずっと行方不明とされてた書簡だったわ!」
→中村「そんな貴重なものならデジタル化して公開しましょう!」
→石原先生「せっかくだから翻刻テキストも一緒に公開したい!」

②書簡の翻刻テキストをTEI準拠で公開（2023年）

参考情報：

石原あえか「日本に現存するゲーテ書簡 調査報告と再発見」
東京大学ヨーロッパ・ドイツ研究センター発行『ヨーロッパ研究』第22号（2023年）

<https://doi.org/10.15083/0002006008>

翻刻テキスト公開サイト
<https://utda.github.io/goethe/>

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■ゲーテ自署付書簡

翻刻テキスト公開サイト

ゲーテ自署付書簡テキストデータ (TEI準拠)

書誌情報

タイトル

日本語 東京大学総合図書館所蔵のゲーテ自署付書簡
[Letter] Weimar, 29. Dcbr. 1822 [to L. W. Cramer] (WA IV-36, S. 249対応)

ドイツ語 Der Brief von Goethe an Ludwig Wilhelm Cramer vom 29. Dezember 1822 im Besitz der Universitätsbibliothek Tokio

著者

ドイツ語 Johann Wolfgang von Goethe [VIAF](#)

日本語 ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

共著及び
清書

ドイツ語 Johann August Friedrich John
日本語 ヨーン

文献記号について

東京大学総合図書館所蔵のゲーテ自署付書簡

Ew: Wohlgel.

einen etwas verspäteten Weih=
nachten zu übersenden und den längst gehegten, neuerlich auch
wieder ausgesprochenen Wunsch nach einer Beryllstufe
einigermaßen befriedigen zu können, sende gegenwärtiges
in Hoffnung daß auch die Bohemika noch zu erlangen
seyen werden. Mehr sey ni
Wünsche zum neuen Jahr
vaterländische Luft wieder
es unvermuthet.

Und somit allem Guten en
Weimar
d. 29. Dcbr. 1822.
ergebenst

JW v Goethe

文献 表記

UTL Bohemika

WA Bohemica

ゲーテ自署付書簡 (公開元サイト) 日本

画像

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■ Von West nach Ost (『東漸新誌』 または『東漸雑誌』)

概要：2018年に駒場で発見された幻のドイツ語雑誌。1889年1月に創刊された日本初のドイツ語雑誌で、編集・刊行は森鷗外を筆頭にドイツ語が堪能な研究者により行われた。2024年3月、駒場図書館の貴重書に指定される。

ここがポイント：再び先生とのご縁が続き、リッチなテキスト公開を実現

①石原あえか教授の授業で Von West nach Ost が使用され、収録論文のうち2件の論文の翻刻テキストを学生が作成。

②翻刻テキストをTEI準拠で整備し、注釈も添えて公開。

参考情報：

Von West nach Ost (『東漸新誌』) について

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/node/470688>

Was wir wollen? (序文 我らが欲するもの)

<https://utda.github.io/ogai/text/vorwort/>

Über die Theaterfrage (第5号掲載の森鷗外著「演劇問題に就いて」)

<https://utda.github.io/ogai/text/theater>

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■ Von West nach Ost (『東漸新誌』 または『東漸雑誌』)

Vorwort „Was wir wollen?“ Die japanische Übersetzung und die Geschichte der Entstehung der ersten deutschsprachigen Zeitschrift in Japan: Von West nach Ost. An dessen Ende befindet sich eine Volltextübersetzung mit Anmerkungen. テキスト翻刻：鶴田奈月 注釈および監修責任：石原あえか Transkribiert von Natsuki TSURUTA (Doktorandin der Graduate School of Arts and Sciences) unter der Leitung und Gesamtverantwortung von Prof. Dr. Aeka ISHIHARA (Graduate School of Arts and Sciences); mit zusätzlichen Anmerkungen von Prof. Dr. Aeka ISHIHARA システム構築：中村覚（史料編纂所助教 兼 附属図書館学術資産アーカイブ化推進室員） System für das Digital-Archiv, aufgebaut von Dr. Satoru NAKAMURA (Historiographical Institute) TEIエンコーディング：中村美里（附属図書館学術資産アーカイブ化推進室員） TEI-Encoding von Misa NAKAMURA (General-Library) 凡例 / Vorbemerkungen (1)原文テキストの歴史的な正書法と綴りのまま翻刻しているが、カタカナと現在の綴りが異なる	Was wir wollen? [1] Seit Commodore Perry das lange verschlossene Japan dem allgemeinen Völkerverkehr eröffnete, seit Japan, das Land im letzten Ostsaum der alten Welt[,] mit modernen Culturstaaten [des] Westens in Berührung gekommen ist, sind schon 30 Jahre verflossen, und welche gewaltige Masse weltbewegender Ideen und neuer Gedanken, bisher im indo-chinesischen Culturbereiche fast unbekannt, in Japans Volksgeist eingedrungen ist, das zeigt sich jedem, wer unbefangen genug ist, vergleichen zu können, was Japan jetzt geworden ist, mit dem, was einst Japan war unter dem alten längst zu Grabe getragenen System; Japan ist aus dem mittelalterlichen Culturstaat herausgetreten, und im vollen Zug sich zum modernen Culturstaat zu umbilden, gleichsam zu einer ersten Stätte der indo-germanischen So sehr es auch unsere 本来なら分離動詞「umzubilden」 e, die einzige Nation im völkerreichen Osten zu sein, die sich mit vollem Verständniß thätig und unverdrossen die modernen Culturelemente anzueigenen strebt, so sehr können wir uns der Frage nicht erwehren, ob das massenhafte Eindringen der westlichen Culturgedanken in Japan, Japan selbst zum Segen gereicht, oder zum Fluch, ob nicht auch Japan das Schicksal beschieden sein könnte, unter dem wir noch heute manche Nationen von der stolzensten Vergangenheit leiden
--	--

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■田中芳男・博物学コレクションから『摺拾帖』

概要：明治時代の博物学者である田中芳男（1838－1916）が収集・所蔵した貴重な資料群。明治・大正期のスクラップブック『摺拾帖』がコレクションの中核としてある。

ここがポイント：既存データの再活用＋職員による人海戦術

①史料編纂所との連携による『摺拾帖』（全99冊）のタグ付け（1～15帖）

- ・『摺拾帖』は公開できたけど、貼り込まれている資料単位での検索ができないことが課題・・・
- 史料編纂所で1巻から15巻までの貼り込み資料単位の目録があることを知り、データ提供を依頼
- データ提供の快諾があり、貼り込み資料単位のタグ付けを実施！

②コロナ禍での在宅勤務を活用したタグ付け（16帖～）

- ・15巻までは終わったけど、残り99巻までのタグ付けをどうしよう？
- と悩んでいるときに新型コロナウイルスの流行
- 問答無用で在宅勤務をせざるをえず、自宅でできる仕事の創出が課題に・・・
- 「そうだ、みんなにタグ付けをしてもらおう！」（詳細は以下の発表資料にまとめています）

参考情報：

第4回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー「使われるデジタルアーカイブになるために」

使われるための地道なデータづくりの話ーコロナ禍だからできた「摺拾帖」のタグ付けー

<http://hdl.handle.net/2261/0002000025>

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■田中芳男・博物学コレクションから『摺拾帖』



電子展示『摺拾帖』(拡張版)

白鶴

人物 (1件)

☐ 田中芳男 1

すべて表示

場所 (4件)

☐ 日本酒 4

☐ 大阪 2

☐ 日本 1

☒ 長野県 1

すべて表示

組織 (1件)

☐ 志那忠 1

すべて表示

キーワード (9件)

☐ 白鶴 8

摺拾帖 十七 87枚目

タグ: 和暦: 明治15年, 西暦コード: 18820099099, タイトル: 山城国名産白類: 銅, 数量: 1枚, 書誌事項: 16.2×13.0 茶の銘柄、京都柳馬場綾小路善明治8年京都博と明治9年費府万博で受賞, 内容分類: 諸営業, 帖数: 『摺拾地名: 京都, 所蔵: 東京大学, 帖名: 摺拾帖 十七, 抽出方法: 手動, 機械タグ: P摺拾帖 十七

摺拾帖 八四 168枚目

タグ: (酒), Hakutsuru, Japanese_Sake, Kano&Co, Yokobori.Osaka.J. 冊: 摺拾帖 八四

摺拾帖 八六 130枚目

タグ: 小樹屋製, 御菓子司, 池野駅前, 白鶴, 饅頭 冊: 摺拾帖 八六

摺拾帖 八七 153枚目

タグ: 五二共進会場内_嘉納合名会社代理店_樋口商店, 凱旋記念五二共酒_白鶴_見本販売店, 清酒特待割引券 冊: 摺拾帖 八七

このように、貼り込み資料単位での検索ができるようになりました！

3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■ピラネージ画像データベース

概要：ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ（1720-1778）と彼の息子フランチェスコ・ピラネージ（1758-1810）による版画集。

ここがポイント：未公開なんて、もったいない！データレスキュー事例

科研費（1999-2003）によりデジタル化・データベース公開されたコンテンツだったが、運用上の理由から非公開となったままだった

- アーカイブズ事業の一環として専門業者にデータ救済を発注
- 当時の科研費メンバーだった教員と連絡がとれ、再公開の許諾をもらう。
画像の利用条件も 自由利用可 で了解される。

参考情報：

第3回デジタルアーカイブ学会賞授賞 2021年

<https://awards.digitalarchivejapan.org/awards/3rdawards/3rddetail/>



Frontespizio. Interno di prigione con scala e passarelle, strumenti di tortura, catene; in primo piano, in basso, una ruota ad aculei; in alto una figura urlante in ceppi; nel centro la scritta; Carceri d'invenzione di G. Battista Piranesi Archit, Vene.

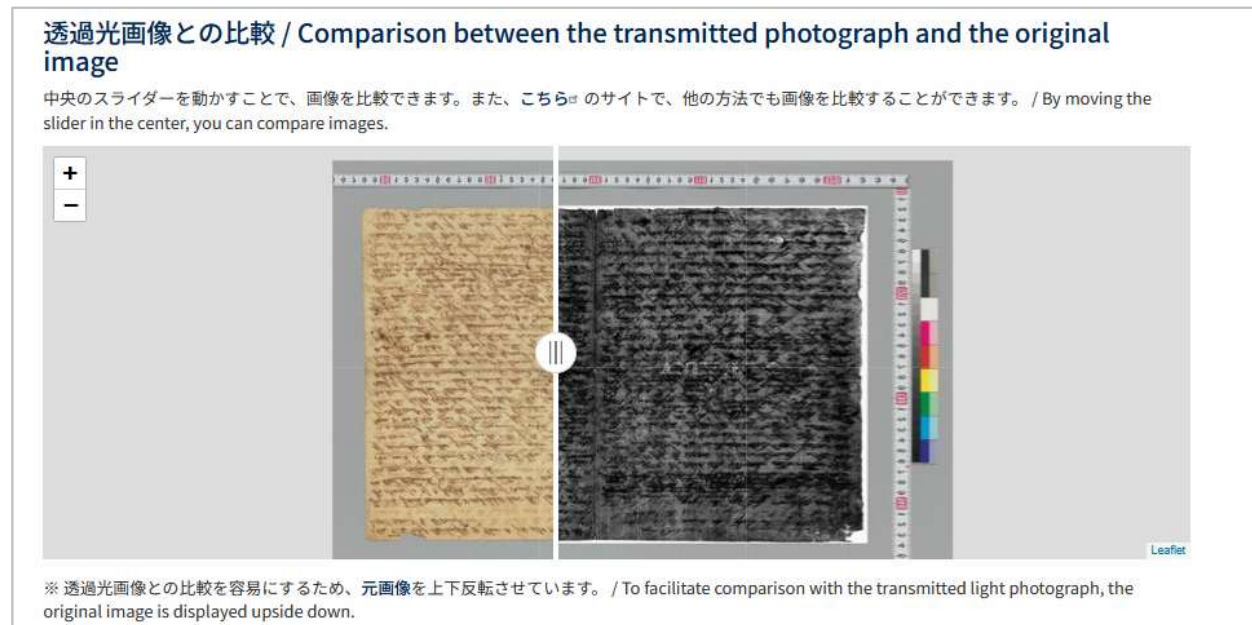
3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■シェリーの書簡 (Fragment of an Address to the Jews)

概要：イングランドの詩人パーシー・ビッシュ・シェリー (Percy Bysshe Shelley, 1792-1822) の手稿。

ここがポイント：関連資料も一緒に公開＋撮影の工夫

- (1)『英文學研究』別冊第2 (1923年刊) に、斎藤勇と市河三喜による当該手稿の解説・翻刻テキストをまとめた論文が掲載されているという助言を、シェリーが専門の先生から受ける → それぞれの著作権継承者に連絡をとり、画像と論文とをあわせて公開
- (2)この手稿は、ウォーターマークの入った紙に書かれており、そのマークが閲覧できるよう透過光画像も作成。比較がしやすいビューワで公開



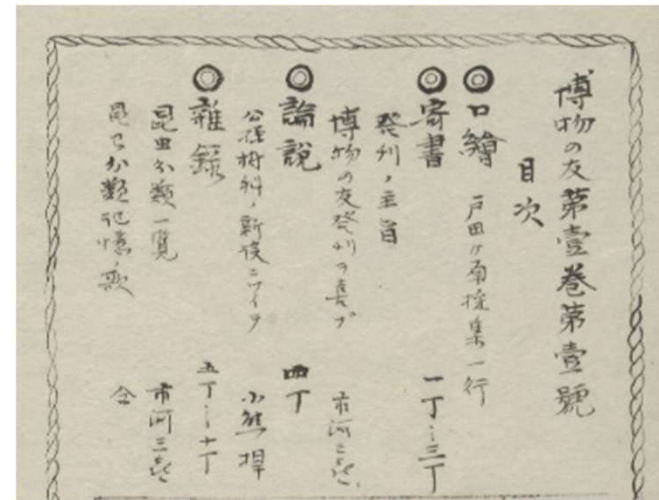
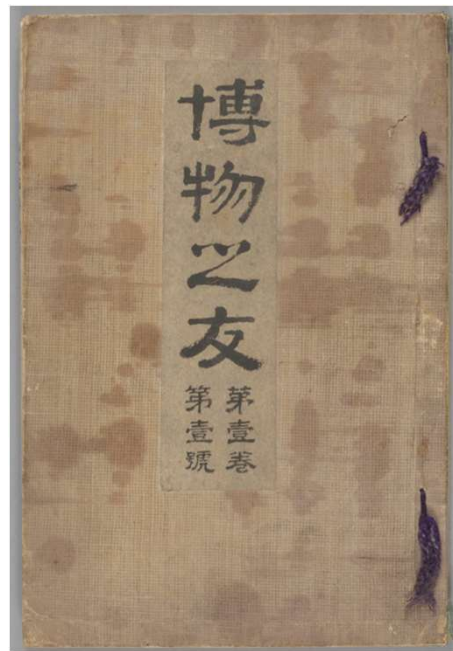
3. アーカイブズ事業での取組 à la carte

■博物之友

概要：東京府第一中学校在学中の市河三喜や東条操などにより、明治33（1900）年から明治34（1901）年に発行された手書きの回覧雑誌（全8号）。

ここがポイント：シェリーの書簡からのご縁で・・・

シェリーの書簡公開サイトに市河三喜氏の論文を掲載したことをきっかけに、市河家のご遺族から寄贈された資料。柏図書館の貴重書として保存。



4. それで、、、
使われるデジタルアーカイブって何？

4. 使われるデジタルアーカイブって何だろう？

■使ってもらうために、中村個人が考えていること

- 公開データは（なるべく）自由利用可に
 - ・ 私たち自身の業務省力化のためにも
 - ・ **Exciting things happen when you set data free!**
データを自由に使えるようにすると、素晴らしいことが起きるよ！
[スミソニアン博物館]
- とにかく永く安定して公開し続ける
 - ・ 実はこれが一番大変かも？・・・でも「使える」と信頼してもらうことが大事
 - ・ システム変更でURLが変わる場合はリダイレクト設定なども
- 多くの人の目に触れる仕掛けをつくる
 - ・ 例えばジャパンサーチ等との連携で、とにかくメタデータを拡散させる
 - ・ デジタルだけでなく、現物資料から知ってもらうことも大事（展示会などでのPR）
→ 存在を知ってもらわないと、なにも始まらない！
- なるべく研究者と話をする／話をきく
 - ・ いつかどこかで繋がりがうまれることもある（と信じて）
 - ・ 先生方はお忙しい。常にウェルカムではないかも、、、
でも常に無関心でもないかも（と信じて）

でも、何でも公開して
良いわけではない！
慎重になるべきことは丁寧な対応を。

- 著作権
- 肖像権
- プライバシー
- センシティブな内容など

4. 使われるデジタルアーカイブって何だろう？

■なるべく頭の片隅に置いていること

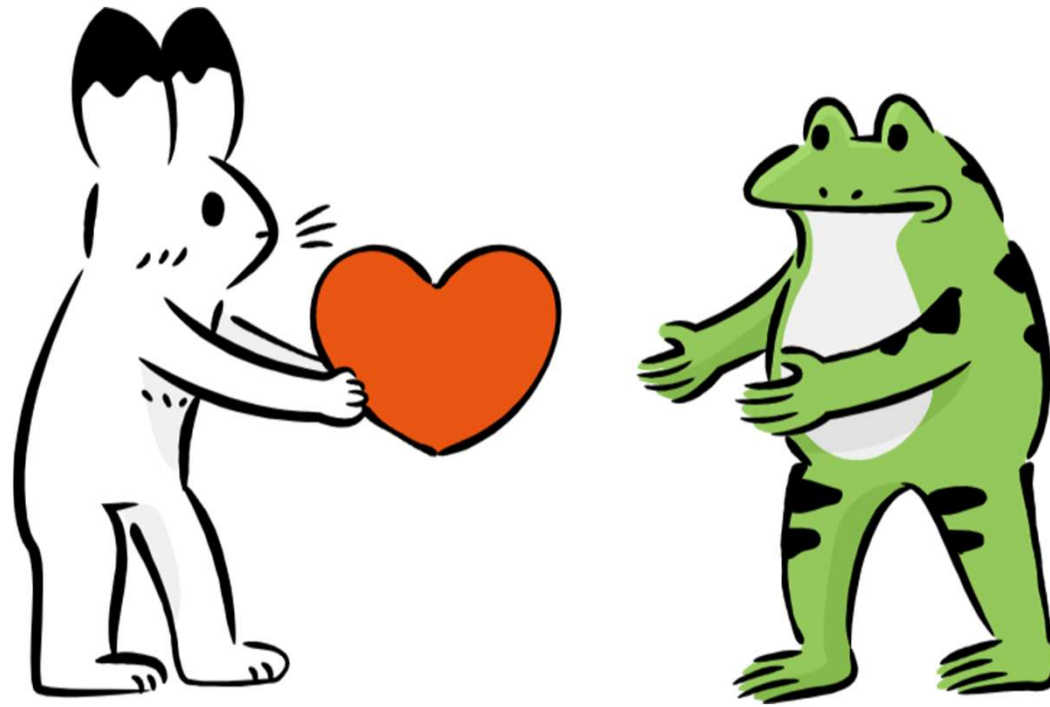
- 研究活動へのリスペクト：自分が考えるよりはるかに、研究は多彩で奥深い
 - ・ 図書館にある資料で不要なものはない（と信じて）
 - ・ いつか誰かがこのデータを活用するかも（と信じて） 広がる **citizen science**

Ref: 「ColBase：国立文化財機構所蔵品統合検索システム」に掲載されている文化財撮影画像の利用状況

- 公開に際して、過度な期待はしない
- 利用されるのは公開直後とは限らない
 - ・ 頑張って公開したのに・・・とは考えない（自戒の念をこめて）
 - ・ 使うタイミングはユーザが決めること → 繰り返しの広報が大事？
- 商業利用、営利目的も「利用」の一つ
 - ・ 商業利用ってダメでしょうか？
 - ・ 商業的に使ってもらえたら波及効果は大きそう・・・ 「なんとなく不安だから」を再考してみるのも大事
- **AIも利用者？!** これからはAIが学習するための良質なデータを提供していくことも図書館の役割？？？

ここは、まだ自分の
なかで考えが全く
まとまってません





いずれにしても
デジタルアーカイブのことはもちろん
共通する業務の悩みは
組織の枠を超えて一緒に考えていければ

今日その機会を与えてくださった阪大図書館の皆様に感謝！

参考情報

- 東京大学ビジョン2020
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b01_vision2020.html
- UTokyo Compass
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>
- 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top>
- 東京大学デジタルアーカイブポータル
<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/>
- 中村美里, 木越みち, 小川夏代子「研究プラットフォーム構築のためのデジタルデータ活用 ―教職協働による「デジタル源氏物語」公開の試み―」(大学図書館研究 126号(2024年))
<https://doi.org/10.20722/jcul.2165>
- 国立大学図書館協会賞 第59回・第71回総会 令和6(2024)年度
<https://www.janul.jp/ja/award>
- 川合加容子, 小田千奈津, 敦賀菜月「CoIBase: 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」に掲載されている文化財撮影画像の利用状況 (デジタルアーカイブ学会誌 vol.10, no.1, 2026)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsda/10/1/10_e1/_pdf/-char/ja
- Exciting things happen when you set data free! (スミソニアン博物館)
<https://dpo.si.edu/blog/articulated-woolly-mammoth-manga>